

平成29年度事業報告書

特別養護老人ホーム青空

1 基本方針に対する評価

特別養護老人ホーム青空では、ニーズにあった社会資源としての役割を担うために、地域連携の重要性を考え、地域に根差し、開かれた施設となるような取り組みを行ってきました。

利用者や家族の意向をしっかりと聞き、地域課題、社会情勢、制度改革など、介護を取り巻く様々な環境の変化に対応し、より質の高いサービスが提供できるよう努めました。また、ふくい保育園との連携を図り、お互いに行き来する中で、高齢者と園児とに楽しい交流の機会を作りました。

特養では、ケアプランを軸に、より具体的な生活課題についてケアを行い、健康の維持、生活の質の向上、暮らし作りに取り組みました。利用者に関わる職員同士が目標や情報を共有し、専門職としてケアを行うとともに、他職種との連携を図りながら、医療対応、救急対応、看取りケア等の質の向上に努めました。

ショートステイでは、利用ニーズの増大に対応すべく、居室管理を行いながら、利用希望に迅速に応えることに努め、緊急時の受け入れも行ってきました。また、利用中においても、個別のニーズに対応するとともに、認知症利用者への専門性のある対応を心掛けました。

障害者への短期入所事業においても、利用者の心身の状態を理解し、寄り添う対応を心掛け、安心して利用できるよう心掛けました。

デイサービスでは、利用者のニーズに合った活動を職員が様々なプログラムを計画し、楽しんで利用してもらえよう工夫しました。利用者に寄り添い、きめ細かな対応を行うことにより、穏やかに安心して過ごせるよう努めました。また、認知症対応型事業所として、地域との連携に重点を置き、地域のサロンに参加するなど、情報発信や共有を図りました。

ケアプランセンターでは、利用者や家族の要望・相談に応じ、適切なサービスに繋がられるよう支援しました。地域の福祉相談窓口として活用してもらえよう、啓発活動や情報提供、民生児童委員との連携を図りました。

2 活動実績

(1) 特別養護老人ホーム青空

ア 健康管理

気候の変化、寒暖差などで高齢者は体調が変化しやすいため、普段のバイタル測定、状態観察などを適切に行い、体調や病状の変化を早期に発見することに努めました。感染症の予防研修を事前に行い、流行時期には予防対策、感染対策を委員会を中心に取り組みました。終末期においても、苦痛なく安楽に過ごせるよう配慮しました。

イ 栄養管理

管理栄養士による栄養ケアマネジメントを軸に、栄養バランスのとれた食事を提供しました。食事の味はもちろん、見た目、食感、食べやすさなどにも工夫をしました。季節感や楽しさも重視し、季節ごとのイベント食やバイキング形式の食事など、食べることの楽しみを持ってもらえるよう努めました。また、食事の摂取状況を把握し、医師との連携により食べやすい食事形態で提供したり、栄養補助食品を提供したりするなど対応しました。看取り期の栄養摂取の考え方を職員全員で統一した理解のもと実施しました。

ウ 介護支援計画

生活動作での課題や暮らしとしての楽しみなどをモニタリングから把握するとともに、利用者や家族からの要望・意向を確認するなど、その方にとって必要な支援や生活上の課題をケアプランに位置づけ、他職種と情報を共有しながら取り組むことができました。

エ 看取り対応

施設での医療の提供や看取りの対応など、様々な要望に留意し、事前の意向確認や病状の変化によりその都度確認するなど、できる限り意向に沿った対応ができるよう、施設全体の体制を整備しました。併せて、研修などを通じて職員の知識・技術の向上を図り、より良い支援や看取りができるよう努めました。

オ ボランティアの受け入れ

地域の中の社会資源の一つとして、様々なボランティアの受け入れを積極的に行いました。演芸披露や趣味活動の慰問、傾聴ボランティアなどの実習、活動の場として広く知ってもらえるよう、ボランティア養成研修等にも一緒に参加しました。受け入れ施設として登録するとともに、施設の現状やニーズなど広報活動も実施しました。

介護度別入居実績表

(単位：人)

要介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
実人数	0	1	6	30	28	65
延べ人数	0	365	1,534	8,161	7,770	17,830

(2) 特別養護老人ホーム青空 (ショートステイ・障害短期入所)

ア 健康管理

入所時のバイタル測定、利用者の訴えや様子の確認、入浴時の皮膚観察、服薬管理、食事、水分の摂取状況や排泄状況の把握、口腔嚥下体操の実施、感染症予防対策、褥瘡予防対策等、健康管理に努めました。

イ 個別対応

利用者の様々な心身の状態やニーズに合わせた個別の対応が求められる中、それらの意向に対応すべく、職員の資質の向上を図り、安全に楽しく穏やかに過ごしてもらえるよう努めました。医療や認知症の重度の方などへの対応も、他職種で連携・協力して対応しました。

ウ 信頼関係の構築

利用者本人との信頼関係は勿論、家族や居宅支援事業者の担当ケアマネなどとも連絡を密にして相談・報告をすることで、共に支えることを意識し、意向に沿ったより良いケアを実現することに努めました。

介護度別利用実績表

(単位：人)

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	障害
実人数	0	7	12	20	27	19	10	95	65
延べ人数	0	92	349	833	2,785	1,446	972	6,477	210

(3) デイサービスセンター青空

ア 健康管理

毎日のバイタル測定、入所時や入浴時の皮膚観察、口腔嚥下体操、ラジオ体操の実施、ボール等を使った体力増強・筋力アップ、下肢筋力低下の予防として足浴・フットケアを実施して健康管理に努めました。

イ 利用の多様化への対応

見学、お試し利用などを通して、デイサービスでの活動の様子や一日の流れを理解してもらい、利用につながるよう短時間からの受け入れや希望時間の送迎などを行いました。また、ニーズに合わせ、利用日の変更や緊急の受け入れも行いました。

ウ 活動プログラムの充実

利用者の要望や意見を参考にしながら、お菓子作りや外出支援など、季節を感じられる行事を毎月企画・実施しました。また、誕生月に誕生会の開催やパステル画、ちぎり絵、季節の作品作りで職員で相談し工夫を凝らしました。認知症に効果のある脳トレやレクリエーションを継続して実施しました。

介護度別利用実績表

(単位：人)

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
実人数	1	6	4	8	6	8	1	34
延べ人数	47	339	329	814	228	638	47	2,442

(4) ケアプランセンター青空

ア 相談支援

利用者や家族のニーズを把握し、必要なサービスを提供できるよう支援しました。サービス提供時の様子や利用状況、新たな課題などの把握に努めました。

イ 福祉相談窓口としての啓発

地域で生活されている方に、福祉相談窓口として認識してもらえるようにチラシを作成しました。地域の商店、事業所、医療機関、関係団体などに訪問し配付しながら、情報提供・意見交換などを行いました。

ウ 地域との連携

地域の町内サロンへの参加、民生児童委員等との協力・連携に努めました。地域の方の困りごとや課題を把握しながら、福祉専門職として役に立てるよう活動しました。

3 委員会活動

事故再発防止委員会、褥瘡予防対策委員会、身体拘束廃止委員会、感染症対策委員会を隔月に開催し、それぞれの目的に応じた予防・改善に努めました。また、産業医の協力による安全衛生委員会を開催し、施設内の職場環境の巡視、評価、ヒヤリハット事例等を通して、リスクマネジメントの観点から改善を図りました。健康づくり、メンタルヘルス、ストレスチェック、快適職場環境などについても取り組みました。

また、行事委員会を随時開催し、青空秋祭りや敬老会、クリスマス会等を実施し、利用者に喜んでもらいました。ふくい保育園とも協力しながら、お互いの行事への参加を楽しんでももらいました。

4 環境整備

5S推進活動の一環として、利用者の生活環境である施設内外を清掃・整理・整頓することで、気持ちよく過ごしてもらえるように努めました。安全衛生委員会においても、職場環境としての危険箇所の見直しや改善を行いました。

5 防災対策

火災、地震、風水害等の災害に備え、定期点検を年2回（9月・自主訓練、3月・消防署立合い）実施しました。昼間の火災だけでなく、夜間の想定での通報、初期消火、連絡周知体制、避難誘導等の訓練を行い、防災意識を高め、消防設備の取り扱いや災害時に落ち着いて行動ができるように努めました。

また、火災だけではなく、風水害発生時の対応、避難訓練を実施し、風水害発生時の注意点や避難場所の確認、情報収集の方法、車椅子での階段の昇降方法、避難の所要時間など勉強会を開催しました。

6 研修

(1) 内部研修

身体拘束廃止委員会では、虐待についての理解を深め、事例をもとにグループワークを行い、意識統一を図りました。また、事故防止研修では、誤薬事故を防止するためのマニュアルの徹底や具体的防止策、認知症の方の拒薬への対応等を学びました。感染症対策委員会では、流行するノロウイルスへの予防対策、蔓延防止のための吐物処理方法、インフルエンザ対策などを重点的に学びました。

(2) 外部研修

栃木県、栃木県社会福祉協議会、栃木県老人福祉施設協議会等が主催する各種研修会への参加を通じ、自己研鑽に励み、資質及び利用者支援の向上を図りました。

社会就労センターきたざと

1 基本方針に対する評価

社会就労センターの基本機能である「一般就労が困難な障害者に一定の支援のもとに就労の機会を提供する」ことを主目標とし、安心して地域で暮らすことができるよう、本年度も継続的な就労の機会を提供してきました。また、利用者の方の要望などを基に個々の能力や適性に応じた個別支援計画を作成し、モニタリングを行いながら、利用者の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援を行いました。

生活介護事業では、障害特性により1日を通して継続して作業を行うことが困難な方などへの対応や、少しでも高い工賃が支給できるよう、作業収入のアップを目指し、受注量の増に努めました。

就労継続支援事業A型では、障害者の方へ就労の機会を提供し、利用者個々の地域社会での自立と社会参加を促進し、知識及び能力の向上のために、『屋内子ども遊び場キッズピアあしかが』において場内業務補助やSHOP販売業務・補助などの必要な訓練を行うとともに、安心して地域で暮らすことができるよう必要な相談やアドバイス等の支援も行いました。

就労継続支援事業B型では、引き続きエコリサイクル事業や環境整備事業に力を入れるとともに、ユニフォーム事業では「とちぎ技能五輪・アビリンピック」の記念品作製やレンタルミシンの活用による大量受注があったほか、年度末に新たに「IT・印刷事業」を立ち上げ、更なる作業収入のアップに取り組みました。

● 個別支援計画

個々の利用者の希望などをもとに、それぞれの能力や適性に応じた個別支援計画を作成し、利用者の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援を行いました。

生活介護事業では、利用者の方の障害特性をよく踏まえたうえで、必要な支援を支援計画書や支援実施書に組み入れ、モニタリング等により経過を確認しながら、必要に応じて目標を変更するなど、目標達成に近づけていけるよう支援を行いました。

就労継続支援事業A型では、生活ニーズを抽出し、利用者の希望する生活や業務の課題等の把握（アセスメント）を行い、これを踏まえた支援計画書をもとに、利用者が自立した日常生活を営むことができるよう支援を行いました。

就労継続支援事業B型では、利用者一人ひとりの就労意識を高めるため、個別支援計画の中に一日の目標作業数を設定するなど、利用者自らが達成状況を確認しスキルアップしていけるような取り組みを継続して行いました。

2 活動実績

(1) 生活介護事業

- ア 生産活動
- 受託加工事業

(2) 就労継続支援事業A型

- ア 生産活動
 - (ア) 公益事業所「キッズピアあしかが」場内業務補助
 - (イ) 公益事業所「キッズピアあしかが」ピクニックエリア内SHOP 販売業務・補助

(3) 就労継続支援事業B型

- ア 生産活動等
 - (ア) 受託加工事業
 - (イ) エコリサイクル事業
 - (ウ) 環境整備事業
 - (エ) ユニフォーム事業
 - (オ) IT・印刷事業
- イ 施設外就労
 - アラマーク

3 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

(1) 生活介護事業

定員 30名 契約者数 37名（土曜日のみの契約者 4名）

(2) 就労継続支援事業A型

定員 10名 契約者数 10名

(3) 就労継続支援事業B型

定員 20名 契約者数 31名（土曜日のみの契約者 8名）

セルプ絆

1 基本方針に対する評価

セルプ絆の基本機能である「就職という夢を実現する支援と地域生活の安定と充実のための支援を行う。また、一般就労が困難な障害者に一定の支援のもと、就労の機会を提供する」ことを主目標とし、安心して地域で暮らすことができるよう、個々の目標や意向に合わせたサービスの提供を行いました。

就労移行支援事業『ジョブサポート絆』では、学習プログラムや社会生活技能訓練、ビジネスマナーなど、社会生活に必要であり、かつ、企業に求められる人材となるよう就労に特化した訓練を

続けてきました。また、各関係機関とも連携を図りながら、積極的に求職活動を行い、目標である就職に達した利用者には、より長く就労できるよう定着支援を行ってきました。

就労継続支援事業B型『peterpan』では、「街のパン屋さん」としてより地域に密着していきけるよう、新商品の開発や販売戦略を工夫しながら事業展開を行い、一方、福祉サービス事業所の側面としては、利用者が自分の仕事に自信を持って働けるよう、各担当業務に応じた支援に努めました。また、店休日には、仕事からのリフレッシュが図れるよう、利用者の意向に沿った余暇活動支援を実施しました。

● 個別支援計画

利用者や家族の意向などをもとに、個々の能力や適性に合った個別支援計画を作成し、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援を行いました。

就労移行支援事業『ジョブサポート絆』では、就職に必要な個々の課題を整理し、個別の訓練プログラムを組み立てながら、それぞれの課題に取り組みました。

就労継続支援事業B型『peterpan』では、利用者本人の就労意欲を向上させ達成感を味わえるよう、分かりやすい目標を掲げるとともに、明確な達成イメージを持つことができるような計画の作成に努めました。

2 活動実績

(1) 就労移行支援事業『ジョブサポート絆』

ア 学習プログラム

公文式学習を活用し、個々の学力に合わせた学習を行う中で、単に学力を身につけるだけでなく、就職に必要な集中力、持続力、思考力等を養いました。

イ 社会生活技能訓練（SST、コミュニケーショントレーニング等）

就労するために必要な対人関係やコミュニケーションスキルを習得するために、敬語の使い方や受け答えの仕方等を実践形式で訓練しました。また、トラブルになりがちな金銭管理やSNS利用のルール、安定した社会生活に必要な身だしなみ、健康管理等のスキルを活かせるよう継続した支援を行いました。

ウ 企業・現場実習支援

企業での実習において、より実践に近い形での経験を積み、その中から見えてくる個々の課題に対する訓練を行いながら、就職に結びつくようきめ細かな支援を行いました。

また、関係機関と連携を図りながら、障害者を雇用する地域の企業や職域の開拓を積極的に行い、障害者が働きやすい環境、場所の提供に努めました。

エ ジョブコーチ支援

就労移行支援プログラムに沿って、専門のスキルを持ったジョブコーチが障害者職業センターと連携をし、企業等において支援を行いました。

オ 職場定着支援（就職者の状況）

本年度は、目標就職者数10名に対し5名の実績でした。また、本年度就職者の3月末現在の定着率は80%となっており、より長く就労できるよう、随時継続して支援を行いました。

(2) 就労継続支援事業B型『peterpan』

ア 生産活動内容

(ア) 食品加工業務（製パン等）

(イ) 店舗等における販売及び喫茶運営

3 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

(1) 就労移行支援事業『ジョブサポート絆』

定員 10名 契約者数 11名（年間延べ契約者数 19名）

(2) 就労継続支援事業B型『peterpan』

定員 10名 契約者数 9名（年間延べ契約者数 11名）

ダイアクティビティセンターWIN

1 基本方針に対する評価

「ダイアクティビティセンターWIN」では、個人の感性を最大限に生かし、その人らしく活動することを大きな目的とし、個々の利用者に合わせた「日常生活上の支援・介護」、「軽作業等の生産活動や創作的活動の機会の提供」、「利用者主体の個別支援計画の作成、実践」を行いました。

WINグループ・銀河グループそれぞれの特色を生かしながら、WINグループでは、食事・排泄・移動等の日常生活支援を中心とし、創作活動や音楽活動・スノーズレン等の活動を行いました。また、銀河グループでは、EMボカシ作りや再生紙活動等の作業的な活動のほか、楽器演奏・スポーツレクリエーションなどの幅広い活動を行いました。さらに、合同の活動として、カラオケ（毎週木曜日）、少林寺拳法体操（隔週火曜日）、日帰り旅行（アクアワールド大洗）、小グループでの外出（買い物・食事）を行うなど、利用者の皆様に楽しく過ごしてもらえ活動の提供に努めたほか、新年会・七夕・クリスマスパーティーなどの季節に応じた活動を行い、その中で和太鼓・オカリナなどのボランティアの受け入れも行いました。

特に、平成29年度は、レクリエーション活動の充実を重点目標に掲げ、全体でのパネルシアターや音楽活動にバルーンや手遊び等を取り入れるなど、様々な取り組みを行いました。

● 個別支援計画

利用者及びその家族との話し合いの場（個別支援会議）を設け、個別支援計画等の説明を行い、その後も随時モニタリングを実施するなど、十分な説明と同意を得ながら次の支援へと結び付けました。

また、日々の活動の中で、利用者との信頼関係を深め、安全で楽しく有意義な時間を過ごせるよう、きめ細かな配慮に努めました。

2 活動実績

個別支援計画をもとに、利用者個々の能力や適性に応じた様々な活動プログラムを提供するとともに、機能訓練を実施し、日常生活能力の維持・向上に努めました。また、日常生活支援を行うことにより、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援に努め

ました。

(1) 文化的活動

ア 音楽活動

(ア) カラオケ

好きな歌を歌うことにより楽しい時間を過ごせるよう配慮しながら活動を行いました（週1回（木曜日午後）実施）。

(イ) 音楽活動等

それぞれのペースや好みに応じた音楽の提供、様々な楽器に触れ、演奏する楽しさ、仲間との一体感などを通し、心身のリラックスや自己表現の場の確保を図りました。

イ 造形活動

(ア) 工芸

ケナフと牛乳パックを使用した再生紙作りや折り紙を使ったちぎり絵などの工芸品を作成しました。集中して活動を行う時間の提供を目的とし支援を行いました。

ウ 作業活動

障害の程度に応じた作業項目を設定し、その中で個別支援計画に基づく支援を行いました。物を作る喜びを感じ、更なる作業意欲を引き出せるよう支援を行いました（火曜日午後・金曜日午後実施）。

エ スノーズレン

ホワイトルーム活用によるリラクゼーション・ボールプール等の活用によるアクティビティ的機能訓練等利用者の希望や計画的な利用を行いました（随時実施）。

(ア) 本人の希望による自由な利用（気分転換やリラクゼーションとしての利用）。

(イ) 必要と思われる利用者に個別プログラムとして計画的な利用を行い、援助者との楽しくゆったりとしたコミュニケーションを図りました。

(ウ) その他利用者の希望する活動を、個別活動としてプログラムに取り入れ行いました。

(2) 機能訓練

ア 軽運動

(ア) 散歩

気候の良い日を選び、外の空気を吸うことによるリフレッシュや季節感を感じることを大きな目的として実施しました。

(イ) レクリエーション

利用者全員が参加できる軽運動として、ゲートボール、ボウリング等を中心に行いました。体力の維持・増進を図れるよう配慮しながら支援を行いました。

(ウ) ストレッチ等

個別支援計画に沿い、個別に必要なストレッチや各種練習・訓練を行いました（随時実施）。

3 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

定員 40名 契約者数 52名（銀河グループ 24名、WINグループ 28名）

セルプみなみ

1 基本方針に対する評価

社会就労センターの基本機能である「一般就労が困難な障害者に一定の支援のもとに就労の機会を提供する」ことを主目標とし、家族と連携して支援するとともに、地域で安心して働き・暮らすことができるよう、継続的かつ安定的に生産活動の機会を提供しました。

生活介護事業では、利用者の状況に合わせた食事・排泄等の日常生活上の支援を行うとともに、生産活動を通して自立した日常生活の充実のための支援を行いました。

就労継続支援事業B型では、より自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、様々な生産活動の機会を提供し、より高い工賃の支給に努めました。特に、クッキー等製造・販売では、積極的なイベント販売への参加や官公需の受注により一定の成果を挙げ、前年度を上回る工賃実績を得ることができました。

● 個別支援計画

利用者や家族の希望や意向などをもとに、個々の能力や適性に合わせた個別支援計画を作成し、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう支援を行いました。

生活介護事業では、利用者一人ひとりの日常的に必要な生活支援を明確にするとともに、生産活動における具体的な作業支援目標を設定した計画の作成に努めました。

就労継続支援事業B型では、生産活動における作業意欲や達成感を意図した計画の作成に努めました。

2 活動実績

(1) 生活介護事業

- ア 生産活動内容
- 受託加工事業

(2) 就労継続支援事業B型

- ア 生産活動内容
 - (ア) 製品製造事業（クッキー等製造・販売）
 - (イ) 受託事業（施設外清掃作業）
 - (ウ) 受託加工事業

3 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

(1) 生活介護事業

定員 15名 契約者数 14名

(2) 就労継続支援事業B型

定員 15名 契約者数 15名

グループホーム（ドナルド・デイジー・あゆみの家）

1 基本方針に対する評価

利用者が地域において共同して自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談や入浴、排泄又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切に行ないました。

● 個別支援計画

利用者本人及びその家族と話し合う場を設けて、個別支援会議を行い、また、アセスメントを行うことにより、個々に合った生活及び支援の方法を計画して、本人及び家族が安心して暮らせるための支援に努めました。

2 活動実績

(1) 利用者一人ひとりの主体性を尊重しながら、基本的な生活習慣における支援を確立し、生活の幅を広げていけるよう努めました。また、集団生活への適応、仲間との良い関係が築けるように支援しました。家庭に近い環境の中で、細やかな配慮をもって支援を行うよう努めました。利用者の能力に合わせて家事等のスキルアップを目指し、食事、入浴、排泄、着脱等の支援を必要に応じて行いました。さらに、生活の場であることを重視し、外出や買い物、地域行事への参加等の余暇活動の支援に努めました。

(2) 食事については、栄養に留意するとともに、利用者の意見や嗜好を取り入れた献立により、楽しく食事がとれるように努めました。誕生日会やイベントにお楽しみ献立を取り入れたほか、利用者の嗜好に合わせ、食べやすいように配慮しながら、準備から片付けまでの支援を行ないました。また、食堂については、清潔で明るく楽しい場であるよう、更に厨房については、常に衛生面に注意し清潔を心がけました。

(3) 利用者の障害内容や服薬状況などを把握し、嘱託医や家庭との連携を密に、健康増進、疾病の予防、服薬支援等、適切な対応・支援に努めました。日々の健康管理とともに、感染症予防のため、手洗い・うがいの徹底を図るとともに、感染症拡大防止策として吐物処理方法等の職員研修を行い、利用者が安心して生活できるように努めました。

(4) 火災、地震、風水害等の災害における人命の安全及び被害の防止を図るため、消防計画並びに非常災害対策計画に基づいて災害予防対策を適切に講じるとともに、建物及び設備器具等の点検検査を行ったほか、防災訓練として、避難訓練を年2回計画・実施しました。

3 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

定員：	ドナルド	5名、	デイジー	4名、	あゆみの家	5名	計	14名
契約者数：	ドナルド	5名、	デイジー	4名、	あゆみの家	4名	計	13名

ビタミンクラブ

1 基本方針に対する評価

知的な障害を持つ児童が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、その都度適切な支援及び訓練を行うことを主目標とし、サービスの提供を行ってきました。利用者の個性や人格を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせ、日常生活支援、集団生活適応支援等を遊びや活動を通して行い、個々の自立に向けたきめ細かな支援を行いながら、利用者の方が住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援を行いました。

● 児童発達支援計画（個別支援計画）

児童発達支援計画（個別支援計画）を作成し、利用者の個性を尊重しつつ、その持っている個性を最大限に伸ばせるように心掛け、楽しさと満足感を感じながら怪我や事故等が無く成長できるように療育支援を行いました。また、目標達成が見られた場合は、新たな目標を個別支援会議等で家族と話し合い随時計画の見直しを行うなど、より良い支援の実施に努めました。

● 安全な活動環境の提供

必要に応じて危険物の除去、破損個所の補修等の安全対策を講じました。

2 活動実績

(1) 運動ゲーム

ラジオ体操・トランポリン・風船バレー・シャボン玉遊び・ゲーム各種等、体を動かし楽しみました。

(2) 工作

お絵かき（絵の具・クレヨン・ペン）・貼り絵・紙粘土・小麦粘土・工作各種等楽しみながら利用者の創造力を育みました。

(3) 絵本紙芝居

絵本・紙芝居・エプロンシアター・パネルシアター等を楽しみました。

(4) スヌーズレン

視覚・聴覚・触覚・嗅覚などへの刺激を感じ、それを楽しみリラックスできる空間・時間を提供しました。

(5) リトミック

音楽を楽しみながら体を動かし、心と体のバランスのとれた発達を促しました。

(6) 音楽活動

小集団グループでの音楽セッションを行い、音楽を通して、友達・スタッフとのコミュニケーションを図りました。身体運動を引き出すことや社会性・協調性を養うことなどを目的としました。

3 利用者の状況（平成29年度）

利用定員 一日30名

一日当たり平均利用者数 26.4人

社会就労センターきたざと スマイル

1 基本方針に対する評価

スマイルの基本方針である「障害・年齢の枠にとらわれず、幅広い視野から地域で暮らす全ての方の様々なニーズに対して、心のこもったサービスを提供する」ことを主目標とし、各種サービスの提供を行いました。児童から成人まで幅広い利用者の様々なニーズに合わせた活動支援に加え、ドライブ・散歩等の郊外活動も取り入れ、心のこもった、より良いサービスの提供に努めました。

2 活動実績

(1) 日中一時支援事業

放課後や長期休暇中等の日中において活動の場を提供するとともに、家族の就労支援や一時的な休息支援を行いました。

ア 申請者状況

足利市 児童42名 成人29名 計71名、佐野市 児童6名 成人7名 計13名、
館林市 児童1名 合計85名

イ 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
足利	実人数	28人	34人	26人	29人	28人	30人	30人	30人	29人	26人	30人	34人	354人
	延件数	107件	131件	124件	137件	127件	138件	129件	137件	123件	115件	140件	161件	1,569件
佐野	実人数	9人	8人	8人	8人	9人	9人	8人	8人	8人	8人	9人	8人	100人
	延件数	75件	69件	72件	59件	59件	78件	65件	68件	64件	61件	70件	74件	814件
館林	実人数	1人	1人	1人	1人	0人	1人	11人						
	延件数	4件	1件	2件	2件	0件	2件	2件	1件	2件	3件	3件	3件	25件
合計	実人数	38人	43人	35人	38人	37人	40人	39人	39人	38人	35人	40人	43人	465人
	延件数	186件	201件	198件	198件	186件	218件	196件	206件	189件	179件	213件	238件	2,408件

(2) タイムケアサービス

障害児(者)本人の身体介護、家族の介護負担の軽減を目的としたサービスで、時間の制限なく利用できるサービスとして実施しました。

ア 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数(人)	6	7	7	9	13	4	8	4	7	5	8	9	87
延時間数(時間)	13.0	14.5	9.5	16.0	19.0	28.5	20.0	21.5	20.5	15.0	18.0	22.5	218.0

(3) 長期休み特別タイムケア

学校の夏休み等の長期休み期間中のみのタイムケアサービスを実施しました。

ア 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数(人)	5	0	0	6	11	0	0	9	6	5	2	10	54
延時間数(分)	450	0	0	310	1,870	0	0	70	220	130	60	480	3,590

両毛圏域障害者就業・生活支援センター

1 事業内容

(1) 相談・支援の実施

主任就業支援担当者1名、就業支援担当者3名、生活支援担当者2名を配置し、以下のような業務を行いました。

- 障害者からの相談に応じ、その就業及びこれに伴う日常生活上の問題について、必要な指導及び助言その他の援助を行う。
- 事業主に対して障害者の就職後の雇用管理に係る助言等を行う。
- 障害者に対して、障害者職業総合センター、地域障害者職業センター又は事業主により行われる職業準備訓練を受けること及び職場実習を行うことについてあつせんする。

2 活動実績

(1) 障害者に対する相談・支援

- ・支援対象障害者数 853人
- ・相談支援件数 3,734件
- ・就職件数 78件

(2) 事業主に対する助言

- ・支援対象事業所数 134事業所
- ・相談支援件数 1,749件

(3) 職場実習等のあつせん

- ・あつせん件数 71件

(4) 主な相談支援内容

- ・就職先を一緒に探して欲しい。ハローワークへの同行。(就職に向け)
- ・仕事が覚えられない。悩みがある。事業所訪問。(職場定着に向け)
- ・障害者を雇用したが、うまくいかない。どのように進めたらよいか分からない。(事業主支援)

(5) 職場定着促進のための在職者の交流活動の実施

在職中の障害者を対象に、グループワーク等で職場の悩み等を話し合う交流の場を定期的に提供し、不適応課題の早期把握・改善を図り職場定着を促進しました。(年4回実施)

【実施結果】

- 第1回 平成29年6月10日(土)14:00~16:00 場所:臨濟宗妙心寺派萬壽山 光明寺 参加者:11名
第2回 平成29年9月9日(土)10:00~13:00 場所:足利市民体育館 第3競技場 参加者:15名
第3回 平成29年12月9日(土)9:30~12:00 場所:佐野市中央公民館 2階実習室 参加者:13名
第4回 平成30年3月3日(土)10:00~14:00 場所:足利市民体育館 第3競技場 参加者:17名

(6) 関係機関との連絡会議の開催

ア 業務の円滑かつ有効な実施に資するため、労働局、ハローワーク、地域障害者職業センター、自治体、福祉事務所、保健所等の関係機関との連絡会議を開催し、これらの機関との連携を図りました。(年2回実施)

イ 就業・生活支援センター業務の円滑かつ有効な支援実施に資するため、他の就業・生活支援センター、自治体等の関係機関との担当者会議を開催し、これらの機関との連携を図りました。(年4回開催)

足利むつみ会足利障害者相談支援センター

1 基本方針に対する評価

指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業として生活全般に係る相談及びサービス利用計画の作成等に関する業務を行いました。指定一般相談支援事業に係る相談は、実績がありませんでした。

2 活動実績

相談支援専門員3名により指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業として、主にサービス利用計画の作成に関する業務及びそれに伴うモニタリングや利用に関する紹介、手配等を行いました。

(1) 指定特定相談支援事業

利用プラン作成 143件 モニタリング実施 289件

(2) 指定障害児相談支援事業

利用プラン作成 54件 モニタリング実施 42件

(3) 指定一般相談支援事業

実績なし

ふくい保育園

1 保育運営方針に対する評価

ふくい保育園では、子どもの最善の利益を考慮しながら、子どもの健全な心身の発達を図り、日々生活する子どもにとって最高の生活の場としての視点を考えて保育所運営を実施しました。

その児童等の福祉を積極的に増進することに最もふさわしい点を重視して、保育上必要な行事・事業等に創意工夫して、年齢に応じた生活の連続性、発達の連続性を心掛けるとともに、子どもの一人ひとりの発達過程や個性を見据え個人差を尊重した保育を行いました。

開園して4年間、通常保育はもとより、地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業、延長保育、乳児保育、すこやか保育、子育て相談及び地域との交流事業等を実施し、積極的に取り組みました。

保育園に入園を希望する児童数も増加し、多様化した保育ニーズに対応しながら保護者への子育て支援も充実しました。また、保護者会との連携、さらに、地域との交流、近隣の小学校、自治会、老人会及び隣接した特別養護老人ホーム青空等との連携にも積極的に努めた結果、保育運営方針に沿ったそれぞれの事業に大きな成果が見られました。

2 保育内容

保育計画に基づく保育目標である、豊かな感性と丈夫な体「あかるいえがおげんきにあいさつ思いやり」について、自分で考え自分で行動できる力が身につき、保育士や友達など人との関わりの体験を通して、豊かな感性や表現する力が身につきました。

子どもと保護者の安定した関係づくりに配慮しながら、子どもの自発的な活動を大切にできるような環境に配慮し、一人ひとりの発達過程を踏まえいろいろな遊びを数多く経験して、物事に対する意欲と創造性が見られ、計画に基づいた成果が見られました。

(1) 健康

ア 体育遊びやラジオ体操・マラソンなど、戸外での活動を積極的に行いました。生活のリズムを日々身につけることで、楽しんで食事をすることができるようになり、健康な生活が身につきました。また、身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動が年齢に応じた発達の様子を見ながら実施できました。

イ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行い、危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に心がけて行動できるようになりました。

(2) 人間関係

ア 安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣したり遊んだり親しみをもって自ら関わり、共に過ごす喜びを感じられるようになりました。

イ 友達と一緒に活動しながら生活を楽しみ、協力して物事をやり遂げようとする気持ちが芽生えました。

ウ 物事の良し悪しに気づいたり、異年齢児の友達に優しくしたり、外国人など自分とは異なる文化を持つ人に思いやりを持てるようになりました。

エ 地域の人や高齢者の皆様など自分の身近な生活に関係の深いいろいろな人と花植えをしたり遊んだりしながら、親しみが持てるようになりました。

(3) 環境

ア 自然に囲まれた園周辺の身近な事象に関心を持ち、動植物に親しみ、いたわったり大切にしたり、野菜を育て味わうなどして、生命の尊さに気づいていました。また、自然や人の生活に変化のあることなども体験しながら、様々な物に触れ、美しさや不思議さなどに興味や関

心を持てるようになりました。

イ 好きな遊具やおもちゃに興味を持って様々な遊びを楽しみながら、数量や図形、簡単な標識や文字などに関心が持てるようになりました。

(4) 言葉

ア 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、人の話をよく聞き、自分の経験したことや考えたことを、親しみをもって聞いたり話したりできるようになりました。

イ 絵本や紙芝居、物語などの読み聞かせを通して、日常生活の中で文字などに興味や関心を示し、必要な挨拶や会話による意思疎通が図れるようになりました。

ウ 生活の様子を自分の言葉で発表できるようになり、経験したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと及び考えたことを自分なりに表現できるようになりました。

(5) 表現

ア 様々な出来事の中で、感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり自由に書いたり作ったりできるようになりました。

イ いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊べるようになりました。また、音楽に親しみ、歌を歌ったり楽器を使ったりしながら楽しめるようになり、自分のイメージした動きや言葉など、演じたり遊んだりすることを生活発表会やリトルフェスティバルで表現できるようになりました。

ウ 子どもいきいきコンサートに参加し、一人ひとり表現し楽しみました。

3 環境整備

年齢に見合った環境を生活に取り入れながら、安心・安全で快適な利用ができるように、清掃等の担当を定め施設内外の美化整備に努めました。

4 健康管理

保護者との連絡を密にして、乳幼児の心身の健康状態を把握し、健康維持を図るとともに、年2回の定期健康診断及び定期歯科検診を実施しました。特に0歳児・1歳児については毎月1回、小児科の医師（嘱託医）による健康診断も実施しました。また、毎朝、園児の健康状態をチェックし、疾病の予防や早期発見に努めました。

5 避難訓練（消火訓練、風水害、不審者対応、交通安全指導等）

火災・地震・風水害等の緊急時のため、災害を想定した計画書に基づき、月1回避難・消火訓練、風水害に備えた訓練を行いました。また、交通事故から子どもを守るために月1回安全指導を行い、各クラスでは毎週金曜日に交通安全総合指導を実施しました。加えて、防犯・不審者対策も年3回実施しました。

6 保護者との連携

保護者には、園だより、クラスだより、行事の案内及び給食の献立等必要な事項を文書で知らせたり連絡したりして、子どもの生活の様子などを理解してもらいながら連携を図りました。また、

保護者会の協力を得て、園の行事に参加してもらい、より良い信頼関係を築きました。

7 小学校や地域との連携

小学校の行事や授業参観等への参加、卒園生との交流、地域の自治会や地区社会福祉協議会及び老人会（青空を含む）等との交流を通して、積極的に連携を図りました。

8 入園児童数等の状況（平成29年度）

(1) 保育事業

利用延べ人数（年間） 1, 569名

0歳児：126名、1歳児：232名、2歳児：293名、3歳児：346名、4歳児：300名、5歳児：272名

(2) 一時預かり事業

利用人数（年間） 51名

0～2歳児：47名、3～5歳児：4名

(3) 子育て支援拠点事業

利用延べ組数（年間） 800組、利用延べ人数（年間） 1, 833名

父：14名、母：796名、子：1,018名、その他(祖父母等)：5名

(4) 延長保育

利用延べ人数（年間） 145名

0歳児：5名、1歳児：6名、2歳児：31名、3歳児：35名、4歳児：20名、5歳児：48名

(5) 子育て相談（おひさま）

相談実件数（年間） 50件、相談延べ件数（年間） 55件

足利市屋内子ども遊び場「キッズピアあしかが」

1 基本方針に対する評価

「キッズピアあしかが」は、子どもたちの運動機能の向上を図るとともに、子育て世代の交流等により子育て支援を行う施設として、子どもと保護者が安心して、一緒に、楽しく、自由に遊べ、何度も利用したくなるような楽しい時間を提供することを可能とし、幼少期からの運動機能及び体力の向上に寄与するとともに、子育て世代への交流の場の提供・交流促進、子育てに関する相談・援助、地域の子育て関連の情報提供などを実施しました。

また、運営の一部を障害福祉サービス事業所に委託することで、障害者が地域の中で一般の方と触れ合いながら生き生きと働く場を提供することができ、障害者が地域社会の中で自然に社会参画できるようなノーマライゼーションにも寄与しました。

さらに、子ども映像メディアアート事業を併設し、足利市を「映像のまち」としての発展に役立てるとともに、幼少期から映像やメディアアートに関わることで次世代を担う若者の育成にも寄与しました。

2 活動実績

(1) 事業内容

「キッズピアあしかが」の主な事業目的は、「子どもの健全育成の実践」「子育て家庭の絆を深める機会の提供」「子育て世代の交流の場」「地域の活性化」などであり、子育て支援の拠点としての役割を担い、次のような事業を展開しました。

- ア 屋内子ども遊び場における遊具等を活用した子どもの健全育成
- イ 子育て世代に向けた関連情報の提供
- ウ 子育て世代への交流の機会及び交流の場の提供
- エ 子育て支援に関する講習会の開催
- オ 子育てに関する相談の場の提供
- カ 足利市が実施する関連施策等への協力
- キ 地域の関係団体等の事業への協力及び地域活性化事業への協力
- ク 地域子育て支援拠点事業導入のための研究開発
- ケ その他子どもの健全育成に関する事業の開発
- コ 子ども映像メディアアート事業の実施

(2) 利用者数・収入等実績表

(単位：人・円)

月	利用者数	収入		団体利用
		入場料	市補助金	
4月	14,050	1,405,000	15,000,000	
5月	15,051	1,505,100		
6月	14,222	1,422,200		5組・185人
7月	19,904	1,990,400		1組・28人
8月	26,384	2,638,400		
9月	15,735	1,573,500		2組・26人
10月	17,858	1,785,800	15,000,000	3組・77人
11月	13,126	1,312,600		
12月	12,697	1,268,700		1組・42人
1月	14,185	1,418,500		
2月	12,455	1,245,500		
3月	19,135	1,913,500		7組・213人
合計	194,802	19,480,200	30,000,000	19組・571人

※ 入場料：子ども・保護者とも1人100円 市補助金：足利市からの運営費補助金

※ 定員：1クール200名程度、混雑時は定員を超えて変更しました。

3 安全管理等

(1) 安全管理

利用者がいつでも安心して利用できるよう、感染症予防・けが等の発症における救命措置を

行いました。

(2) 環境整備

利用者が清潔感をもって利用できるよう、施設内外・遊具の清掃及び整理整頓等の環境整備に努めました。また、5S活動の取り組みを行いました。さらに、生活環境を保持する観点から、節電やゴミの排出量を抑えるとともに、環境に配慮した取り組みを進めました。

(3) 防犯対策

事故や犯罪等の発生リスクを減少させるために、巡視等を行い防犯等に努めました。

4 広報活動

一般市民等を対象に、施設の基本方針・活動内容などをHP・フェイスブック・インスタグラムを活用しお知らせしました。また、市内保育園・幼稚園・小学校を中心にチラシ等の配布を行いました。

足利市子ども映像メディアアート

1 基本方針に対する評価

「キッズピアあしかが」を利用する子どもたちの健全育成及び子育て世代への支援の更なるツールとして、「学び」「遊び」「地域との絆の体感」をコンセプトに、子どもたちが楽しみながら学びや遊びができる映像体験型プログラムを展開し、子育て支援の充実とともに、足利市が推進する「映像のまち」としてのイメージアップを図りました。

2 活動実績

(1) 事業内容

メディアアートブースは、映像メディア（4つのコンテンツ）を活用し、「学び」「遊び」を通して地域の絆を体感することができる機能を有することから、「キッズピアあしかが」の機能強化及び補完の役割を担うとともに、映像のまちとしてのイメージアップを図ることとし、次のような事業を行いました。

ア コンテンツを活用した子どもの健全育成

(ア) マイクラランド

(イ) ビスケットランド

(ウ) テセレーションランド

(エ) ボカロランド

イ 子育て世代等に向けた関連情報の提供

ウ 足利市が実施する関連事業等への協力

エ 足利市が推進する映像のまち事業等への協力

オ その他映像メディアを活用した子育て支援等

(2) 利用者数・収入実績表

(単位：人・円)

月	利用者数	受託収入
4月	2,743	433,000
5月	2,582	433,000
6月	2,073	433,000
7月	2,664	433,000
8月	3,844	433,000
9月	1,718	433,000
10月	2,580	433,000
11月	2,028	433,000
12月	1,652	433,000
1月	1,620	433,000
2月	1,802	433,000
3月	2,672	433,000
合計	27,978	5,196,000

3 安全管理等

「キッズピアあしかが」と一体的な施設であることから、当該施設と同様の取り組み等を行いました。

4 苦情解決とサービス向上

苦情等に関しては、「キッズピアあしかが」の苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員等が担うこととし、苦情解決に努めました。また、利用者、市民からの要望等をサービス向上に反映させるため、アンケートによる意見、要望等の把握に努めました。また、個人情報等に関しては、法令等に従った適切な対応に努め、セキュリティに万全を期し、外部に持ち出さないことの徹底を図りました。